

聖学院大学総合研究所 ラインホルド・ニーバー研究会及び組織神学・伝道研究会共催
2021年度第1回 ラインホルド・ニーバー研究会及び組織神学・伝道研究会
「高橋義文先生のニーバー研究を覚えて」

2022年2月25日（金）17：30～19：00、オンラインにて2021年度第1回ラインホルド・ニーバー研究会が開催され、19名の参加者を得た。

今回は、「高橋義文先生のニーバー研究を覚えて」という主題のもと、2021年8月29日に逝去された高橋義文先生（元聖学院大学総合研究所所長・名誉教授・同大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学教授）の業績また生前のお人柄を覚えての研究會となった。

発表者は清水正之（聖学院理事長、聖学院大学学長）、小倉義明（元聖学院院長）、菊地順（聖学院キリスト教センター所長、聖学院大学政治経済学部チャプレン・教授）、柳田洋夫（聖学院大学大学チャプレン、人文学部チャプレン・教授）、五十嵐成見（聖学院大学心理福祉・人間福祉学部チャプレン・准教授）の5名であった。

清水氏は、「高橋義文先生の思い出——『下から』の方法とお人柄」ということで、『ラインホルド・ニーバーの歴史神学』をはじめとする高橋先生の著作、お人柄、総合研究所や大学院などのお働き、奨励の印象などについて話された。

小倉氏は、「友人から見た高橋義文教授」ということで、高橋先生の略歴、お人柄などについてお話しされ、福音主義信仰を堅持しつつ、同時に、知的また思想的に誠実な探求者であったと述べられた。

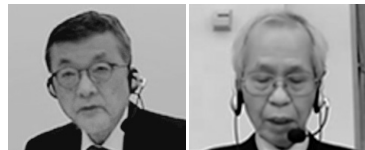
菊地氏は、「高橋義文著『ニーバーとリベラリズム —ラインホルド・ニーバーの神学的視点の探求』を読んで」ということで、氏の研究対象であるティリッヒやキング牧師なども念頭に置きつつ、高橋先生の著作についての所感を述べられた。

五十嵐氏は、「高橋義文『ラインホルド・ニーバーの歴史神学 ——ニーバー神学の形成背景・諸相・特質の研究』の内容とその研究史的意義」ということで、ニーバーの思想の特質として歴史理解を挙げた研究は多くなく、特に歴史神学を一貫したテーマとして扱った研究書は皆無であること

を指摘した。

柳田は、「現在進行中の翻訳について」ということで、2022年中に刊行予定の翻訳であるラインホルド・ニーバー『悲劇を超えて』（高橋義文・柳田洋夫訳、原著*Beyond Tragedy*, Charles Scribner's Sons, 1937, 1965.）の内容の一部紹介を行った。

5名の発表の後に交わされた質疑応答も含めて、改めて高橋先生の業績とお人柄を深く思い起こす研究會となった。



左上：清水正之教授 右上：小倉義明先生
左下：菊地順特任教授 中央：柳田洋夫教授 右下：五十嵐成見准教授

（報告者：柳田洋夫 [やなぎだ・ひろお] 聖学院大学人文学部チャプレン・教授、ラインホルド・ニーバー研究会代表）